

診療科	曜日	月	火	水	木	金	備考
		月	火	水	木	金	
総合内科	初診	山根 一和	山根 一和	酒井 浩光	富田 桂公	山根 一和	
消化器内科		香田 正晴	藤井 政至	松岡 宏至	香田 正晴	松岡 宏至	
		樽本 亮平					
呼吸器内科		富田 桂公	富田 桂公	西井 静香	酒井 浩光	富田 桂公	
	専門外来		交替医(肺がん再診)			西井 静香	
血液・腫瘍内科		但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	
	専門外来				フォローアップ		【診療時間】13時～14時
循環器内科			福木 昌治	福木 昌治		福木 昌治	
	専門外来	ペースメーカー					【診療時間】13時～
糖尿病・代謝内科		木村 真理 (第4週除く)	木村 真理	木村 真理	木村 真理	交替医(第3週のみ)	
腎臓内科				江川 雅博			紹介及び予約のみ
神経内科						阪田 良一	紹介及び予約のみ
緩和ケア		松波 馨士			松波 馨士		診療時間:14時～16時 予約のみ
肝臓内科				山本 哲夫			
小児科	午前	林原 博	佐々木佳裕	坪内 祥子	林原 博	佐々木佳裕	
	午後	佐々木佳裕	坪内 祥子		坪内 祥子	坪内 祥子	【診療時間】15時～17時
	専門外来		佐々木佳裕 【アレルギー】 14時～17時	交替医 【乳児検診】 13時～14時 交替医 【予防接種】 14時～16時30分	【特殊検査】	林原 博 【アレルギー】 14時～17時 【小児腎・膠原病】 14時～17時	
消化器・一般外科		奈賀 卓司	杉谷 篤	久光 和則	谷口健次郎	山本 修	
	専門外来	杉谷 篤		杉谷 篤	杉谷 篤	杉谷 篤	腎移植・脾移植
	専門外来			ストーマ			第1,3週のみ／予約制 【診療時間】13時～16時
胸部・血管外科		鈴木 喜雅	鈴木 喜雅	鈴木 喜雅	(鈴木 喜雅)	鈴木 喜雅	
			門永 太一			門永 太一	
整形外科	専門外来					リンパ浮腫 フットケア	予約制
		南崎 剛	吉川 尚秀	大槻 亮二	南崎 剛	吉川 尚秀	
		濱本 佑樹	濱本 佑樹		大槻 亮二		
	専門外来	南崎 剛			南崎 剛		骨軟部腫瘍
	専門外来				大槻 亮二		関節
泌尿器科	専門外来		吉川 尚秀				リウマチ
		高橋 千寛		小林 直人	高橋 千寛	小林 直人	
放射線科		交替医	杉原 修司	杉原 修司	杉原 修司	交替医	
放射線治療			内田 伸恵				完全予約制
心臓血管外科						交替医	第2週のみ
婦人科						交替医	
眼科			佐々木慎一				
耳鼻咽喉科		山本 祐子		山本 祐子		山本 祐子	
歯科		中本 紀道	中本 紀道		中本 紀道	中本 紀道	

時間

(初診受付) 8時30分～11時 (再診受付) 8時30分～11時 健康診断受付／毎週火・水 予約制

診療情報提供書・FAXによる紹介状の送信先

地域医療連携室直通FAX 0859-37-3931

診療情報提供書・FAXによる紹介状の送信先

地域医療連携室直通FAX 0859-37-3931

米子医療センターマガジン

あーかす #08 アーカス

April 2015

平成26年1月10日 / 初刊発行 平成27年4月24日 / 発行

発行 米子医療センター 〒683-0006 鳥取県米子市車尾4丁目17番1号 デザイン・印刷 / 合同印刷株式会社

無料0円

Yonago Medical Center Magazine

ARCUS

あーかす

ご自由にお持ち下さい

¥0

米子医療センターマガジン #08

April 2015

心と言葉を虹の架け橋にのせ “伝える” “つながる” 情報誌

特 集

新生、米子医療センター

院長あいさつ 活気ある職場づくり

米子医療センターグランドオープン

NewFace

27年4月に赴任された
医師を紹介します

部門紹介

コメディカル部門

●リハビリテーション科 ●薬剤部

Enjoy! 学生 LIFE

看護部からのお知らせ

新生、米子医療センター

2015.3.26 グランドオープン

平成 21 年の看護学校建設に始まった「米子医療センター新築整備事業」は、この新病院駐車場整備を最後とし、いよいよグランドオープンの運びとなりました。レイモンド・チャンドラーが生み出した私立探偵フィリップ・マーロウの台詞に「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きている資格はない」とあるように、私たちもこの新病院を「強くて、暖かくて、優しい病院」にしていきたいと思います。



4月 今月一枚 「ハナミズキ」

撮影／小林 哲（境港市在住）

このハナミズキは小生宅の裏庭（表に庭は無いのですが）に毎年春にきれいな花を咲かせてくれます（花弁のように見えますが実はガクです）。これをソニーのNE X-5で撮影しました。レンズはマウントコンバータを介して装着したコンタックG用のプラナー45mmです。このレンズは抜群の色再現性とその場の空気感も写し取る本当にすごいレンズです。カメラのデジタル化に伴って使用する機会が無くなっていましたがソニーのミラーレス一眼にマウントコンバータで装着できるようになり再び使用するようになりました。撮影に不自由な部分はありますがその色再現性にはやはり感心させられます。

contents

03 新生、米子医療センター

04 活気ある職場づくり 院長あいさつ

06 米子医療センター グランドオープン

- 10 NewFace
27年4月に赴任された医師を紹介します
- 12 部門紹介 コメディカル部門
・リハビリテーション科
・薬剤部
- 14 Enjoy! 学生 LIFE
- 15 看護部からのお知らせ



患者さまと職員が向き合った姿で、患者さま中心の医療提供とYONAGO（米子）の「Y」、MEDICAL（医療）の「M」、CENTER（センター）の「C」の文字を、まごころ、信頼、安心、良質の医療をイメージする「ハート」に組み合わせ「米子医療センター」の明るく元気な姿を表しています。

あーかす

あーかす（Arcus）とはラテン語で「虹」を意味し、英語のArc（弓、橋）+Us（私たち）で「私たちが地域の架け橋になる」という意志を込めてタイトルとしました。私たちの持ついろいろな表情を、地域の方々や医療関係者に広く知って頂き、絆を更に深める情報を掲載してまいります。



院長あいさつ

活気ある 職場づくり

院長 濱副 隆一

歴史に残る大災禍となった福島第1原発事故から4年が経過しましたが、今なお12万人の福島県民が避難先での暮らしを余儀なくされています。事故当時の石原都知事は「我欲のなせる業だ」と述べ、エネルギー政策の大きな転換点であることを示唆しました。さらに、福井地裁が出した大飯原発の運転差し止めを命じる判決では、「豊かな国土に国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができないことは国富の喪失だ」と理由を述べ、国の豊かさを説きました。未だに原発帰郷を望む声が聞こえてきますが、これほど地震の多い日本には再生可能エネルギーが適しているように思われます。

さて、病院経営の理念は、病院事業を通して社会貢献を果たすことです。そのためには、良好な経営のもとで、継続して質の高い医療を提供していくことが重要です。私たちは、この理念達成に向けて、年度毎に病院目標を掲げ目指す方向をひとつにして取り組んできました。次ページに、平成19年度以降8年間の病院目標を示していますが、各病院目標に対しては、病院を運営していく上で必要とされる「顧客意識」、「品質管理」、「院内・地域連携」、「健全経営」の4つの観点から行動目標を提示し、各部門で取り組む指標にしてきました。組織の崩壊は外部要因だけではそう簡単に崩れることはなく、多くの原因は方向性を見失うことで、内部の結束の乱れが大きな要因です。新病院の建設が始まった平成24年度以降には、「働きやすい環境作り」や「対話しやすい職場環境」が行動目標に表れ、さらに平成25年度には「人材育成・教育機能の強化」

が加わりました。これまでの各部門の取り組みにより、少しずつは成果が出ていますが、未だ十分とは言えません。病院にしても会社にしても大事な人は人です。いくら病院が新しくなり、設備が良くなっても、働くスタッフにやる気がなければ、組織として良い機能は果たせないし、また良い人材も育ちません。職員の活性化と人材の育成は、病院の成長を促す要であると思います。

そこで、平成27年度は病院目標を「知識を智恵に変えて取り組もう」とし、①患者視点に立ったサービスの提供、②職員のやる気とアイデアを大切に、③入院医療を重視し、地域と連携、④生産性を高め、費用の効率化を図る、の4項目を行動目標に掲げました。

今年も沢山の新入職員を迎えました。活気ある職場づくりができれば、人材は自ずと育っていくものだと思います。組織や職員個人の活力を引き出し、新生した米子医療センターの機能強化に繋げていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成27年3月26日(木) 米子医療センターグランドオープン

病院正面玄関特設会場において、米子医療センターグランドオープンセレモニーが開催されました。

晴天の中多数の方々にご参加いただき、滞りなく執り行う事が出来ました。



濱副院長



林鳥取県副知事



野坂米子市長



清水鳥取大学医学部附属病院副院長
(現病院長)



野坂鳥取県西部医師会長



平成27年3月26日(木) 14時からの式典は、来賓を含む約60名の方々にご参加いただきました。

約3年前の平成24年7月から病院新築工事が開始され、平成26年6月に新病院の引き渡を受け、平成26年7月から新病院での診療が始まりました。その後、8ヵ月に亘る旧病院解体及び駐車場整備を経て、この日のグランドオープンを迎える事となりました。

駐車場内に特設テントを張り、屋外での式典の始まりです。

開式の挨拶のあと、「新病院の機能を最大限に活用し、地域を支える強くて、暖かくて、優しい病院を目指して、地域に貢献したい」と院長が式辞を述べ、新たな決意を表明しました。

続いて、来賓の鳥取県知事 平井伸治

代理 副知事 林昭男さま、米子市長 野坂康夫さま、国立大学法人鳥取大学医学部附属病院 病院長代理 副病院長(現病院長 H27.4～) 清水英治さま、鳥取県西部医師会 会長 野坂美仁さまよりあたたかい励ましのお言葉と祝辞をいただきました。

今後ますます地域医療の発展のために力を合わせて邁進していかなければという使命感と、まさに地域から求められる病院であるということを改めて実感し、感謝の気持ちで一杯でした。

そしてテープカットが行われ、病院は無事グランドオープンとなりました。

また、この日の記念として参加スタッフ一同で人文字を作り撮影しました。

何と書いてあるか読めるでしょうか?



もみ太鼓(千葉県)

迫力ある獅子舞



ぶちあわせ太鼓(神奈川県)

珍しいイベントで 縁起担ぎ

～ぶちあわせ太鼓と もみ太鼓～

米子を中心に活動されている「芸能集団『和楽衣箱』」さんによる演舞でセレモニーに華をそえて頂きました。

まずは、「もみ太鼓」。千葉県の漁師町に伝わる、神輿の船頭として打たれる太鼓だそうです。打っては跳ねて回って、とても賑やかな太鼓でした。

続いては獅子舞が太鼓の拍子に合わせて景気よく踊り、参加者は盛んに拍手を送っていました。舞の後は縁起を担いで獅子が頭を囓って周り、院長や招き入れた入院患者さまなどの幸運を願っていました。

最後の太鼓は神奈川県に伝わる「ぶちあわせ太鼓」。威勢のいいかけ声とともに、三人の演者が一つの太鼓を代わる代わる叩いていきました。

当日は天候もよく、3月の終わりとしては比較的あたたかい日となり、参加していただいた入院患者さまも喜んでおられた様子でした。

私たちは米子医療センターの基本理念である「地域の命を支える」ことを第一の使命として、強く、暖かく、優しい病院を目指していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この度のグランドオープンセレモニーにあたり、大変お忙しい中ご臨席いただきました来賓の方々、ご支援をいただきました方々、ご参加いただきました入院患者さまに厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

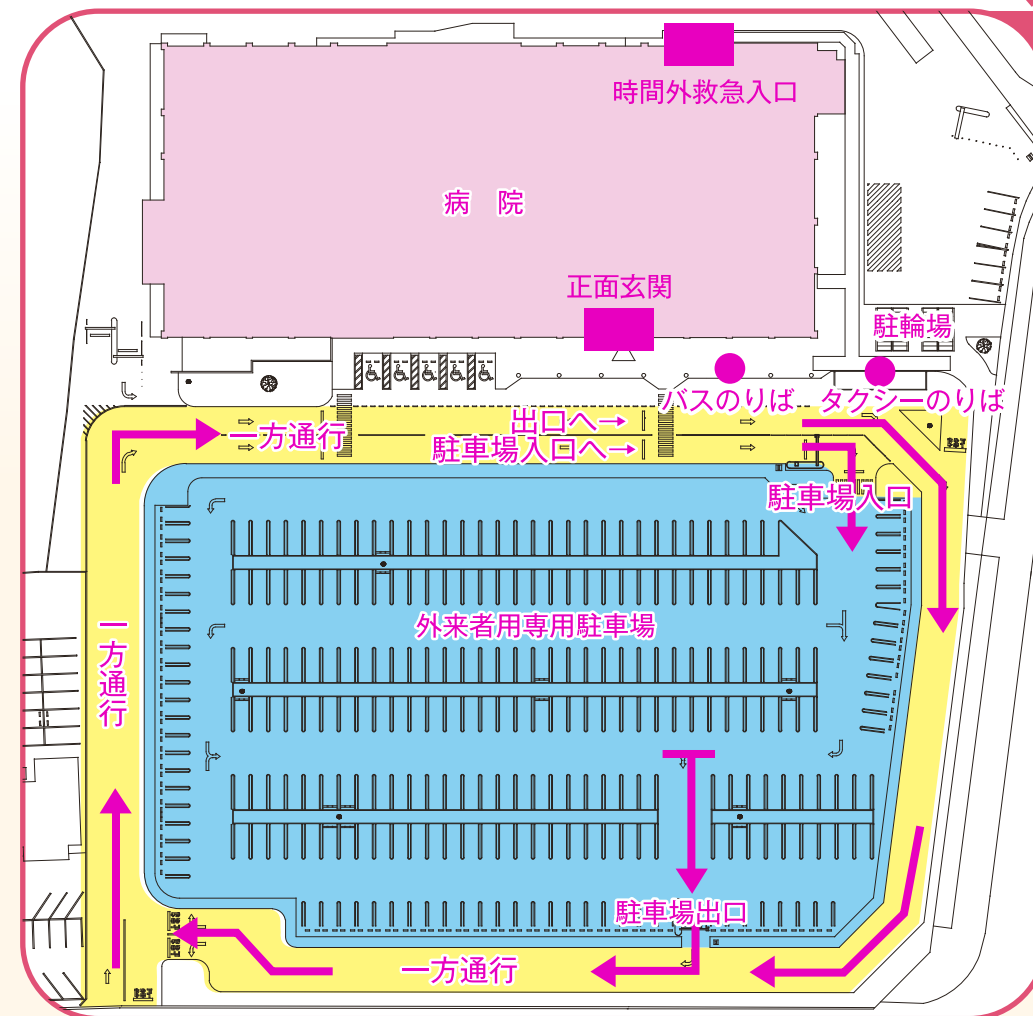
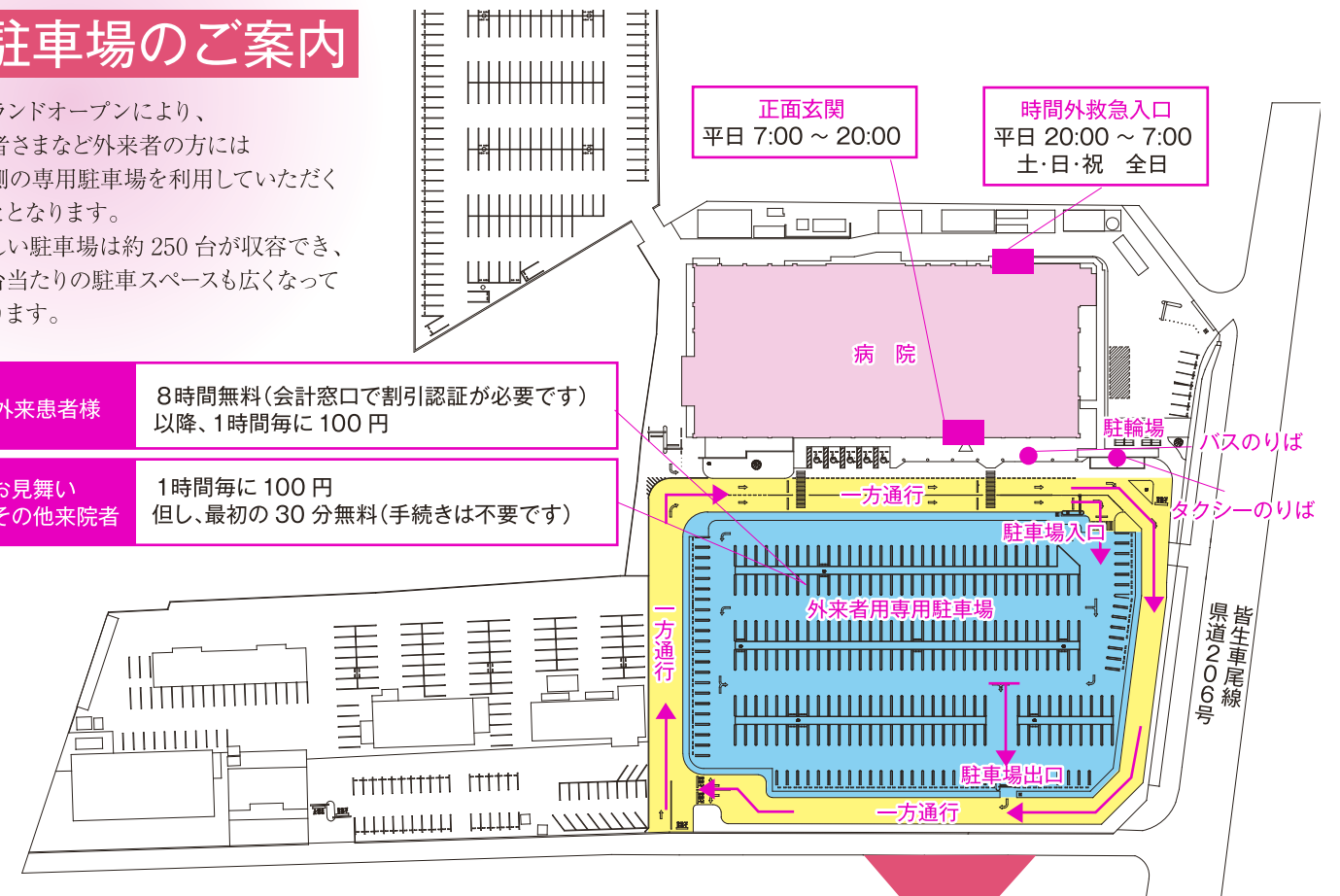
芸能集団『和楽衣箱』(わらいばこ)

2010年、高森勲・佐千代の2名で結成。現在メンバーは7人。日本の芸能を皆さんに気軽に楽しんでもらいたいをテーマに和太鼓や獅子舞、玉すだれなどの公演・ワークショップ活動をここ米子地域を中心に展開中。

駐車場のご案内

グランドオープンにより、患者さまなど外来者の方には南側の専用駐車場を利用いただくこととなります。新しい駐車場は約250台が収容でき、1台当たりの駐車スペースも広がっております。

外来患者様	8時間無料(会計窓口で割引認証が必要です) 以降、1時間毎に100円
お見舞い その他来院者	1時間毎に100円 但し、最初の30分無料(手続きは不要です)



拡大図

駐車場入口までと出口を出てから(左図 黄色の部分)の移動は常に時計回りの一方通行となっております。皆さまのご理解とご協力をお願い致します。



緩和ケア内科 松波 馨士

地域唯一の緩和ケア病棟

緩和ケア内科の松波馨士(まつなみ けいじ)と申します。

出身は滋賀県で、鳥取大学入学後は鳥取県内に在住しております。平成15年に鳥取大学医学部を卒業し、2年間の初期臨床研修後に鳥取大学第3内科(呼吸器・膠原病内科)に入局しました。以後、鳥取大学医学部附属病院、鳥取赤十字病院で肺癌を中心とした呼吸器領域の診療・研究、また日野病院では総合診療・在宅診療・緩和医療などを行ってきました。

生涯のうち2人に1人は癌になり、3人に1人は癌で死ぬ時代となりました。室町時代の平均寿命は33歳といわれ、私はとくに過ぎ去っておりますが、2014年7月に厚労省が発表した日本人の平均寿命は男性が80.21歳、女性が86.61歳です。世界中の医療界における諸先輩方の多大なる情熱と奮闘により、いわゆる『治す』医療が目覚ましい発展を遂げ、平均寿命は今もお伸び続けています。そんな中で最近は、「できるだけ苦みずに関病する・生活する」という点にスポットライトが当てられるようになってきました。緩和ケアは心や身体の苦痛を和らげ自分らしい生活を送れるようにするケアですが、いたずらに寿命を早めることも遅らせることもしません。がんと診断された時から緩和ケアの対象となりますが、まだまだ終末期医療と混同されている空氣が医療者の中にも残存しています。全国的に見れば緩和ケアは比較的普及してきておりますが、鳥取県西部ではまだまだ未熟です。

鳥取県西部医療圏で唯一の緩和ケア病棟、緩和ケア医でありマンパワー不足は否定できません。しかし鳥取県西部地域の住民が「緩和難民」とならないように、臓器を問わず緩和ケア病棟で患者さまを受け入れていきたいと考えています。また併せて地域の緩和ケ

アの普及にも一助となるように励んでまいります。

至らぬ点もあるかと思いますが何卒宜しくお願いします。



内科(感染症) 山根 一和

ていねいな診療を心がけます

内科(感染症)の山根一和(やまね くにかず)と申します。これまでの経歴は、平成9年に川崎医科大学を卒業し、4年半、川崎医科大学付属病院高度救命救急センターで勤務いたしました。その後、東京にある国立感染症研究所で9年半の間、薬剤耐性菌に関する研究を行い、平成23年から4年間川崎医科大学付属病院で院内感染対策の仕事に従事しました。当院では、これまでの経験をもとに、感染症の診療、総合内科の初診や健康診断などを担当し、院内感染対策にも従事させていただく予定です。

熱の出ることが多い感染症ですが、熱だけではどのような種類の「バイ菌」が悪さをしているかわかりません。診察の際は、調子が悪くなった経緯や過去にかかった病気、海外に行った経験や住環境、場合によってはペットの種類(金魚や熱帯魚も含む!)や数までいろいろなことを根掘り葉掘り聞かせていただくことがあるかと思いますが、これらはすべて診断の糸口になる質問ですので、気を悪くなさらないで診察におつきあいいただければと思います。

病院内で新たに感染症に罹ってしまうことを院内感染といいますが、昨今ではこの院内感染の原因となる「バイ菌」は抗菌薬が効きにくい、いわゆる薬剤耐性菌であることが多くなっており、問題となっています。安心して来院していただけるために、このような抗菌薬の効きにくい菌を病院内で蔓延させないよう、努めたいと思います。

お話をよく聞いて、ていねいな診療を心がけたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



消化器内科 松岡 宏至

宜しくお願いいたします

消化器内科の松岡宏至(まつおか ひろし)と申します。

鳥取大学を平成15年に卒業、第二内科に所属しております。前任地は済生会江津総合病院で、消化器内科医として5年間勤務し、医師不足のなか消化器領域だけでなく内科全般の診療を幅広く行ってきました。

当院では、これまでの経験を自分の特色として活かしつつ、質の高い消化器領域の医療を提供できればと考えております。宜しくお願いいたします。



外科 谷口 健次郎

質の高い医療を

外科の谷口健次郎(たにぐち けんじろう)と申します。

平成12年に鳥取大学を卒業し、第一外科(消化器外科)に入局しました。鳥取日赤病院、鳥取生協病院、鳥取厚生病院、博愛病院、安来市立病院など山陰の病院を勤務し、消化器外科診療に携わってきました。鳥取大学病院在籍時は肝、胆、脾の研究室で諸先輩の指導のもと研鑽させていただき、また半年間ではありますが京都大学移植外科で肝臓移植の研修もさせていただきました。

胃、大腸、肝、胆、脾など消化器疾患に対する外科治療、腹腔鏡手術はもとより移植医療に対しても微力ながらお役にたてればと思います。質の高い医療、標準治療を安全、安心に提供できるよう努力し頑張ります。よろしくお願いします。



整形外科 濱本 佑樹

宜しくお願いいたします

整形外科の濱本佑樹(はまもと ゆうき)と申します。

出身は島根県松江市で平成16年に高知医科大学を卒業し、鳥取大学医学部整形外科科学教室へ入局しました。その後関連病院で研修を受け、平成22年から前任地の松江市立病院整形外科で勤務し、整形外科外傷や脊椎外科の手術を担当していました。前任地も病院が新築移転した際には手術件数が増加し忙しかった印象がありますが、米子医療センターもこの度新築となり手術件数が飛躍的に増加していると聞いています。多忙の中でも一般外傷から専門性の高い分野まで医療水準を維持し、日々の診療に取り組もうと考えております。まだまだ若輩者ですが皆様のお役に立てるよう精進して参ります。宜しくお願いいたします。



胸部外科 門永 太一

よろしく願いいたします

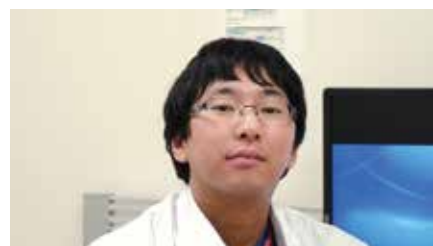
胸部外科の門永 太一(かどなが たいち)と申します。平成25年4月より1年間当科に勤務しており、1年ぶりの勤務となります。

出身は鳥取県境港市です。平成23年に鳥取大学医学部を卒業しました。松江赤十字病院、鳥取大学医学部附属病院臨床研修センター、米子医療センター、松江医療センター、鳥取県立中央病院、鳥取大学医学部附属病院胸部外科と研修医の期間も含めて各病院で勤務をさせていただきました。

当科では呼吸器外科、乳腺外科、内分泌

外科、血管外科領域の悪性疾患から良性疾患にいたるまで幅広い分野の手術を行っています。また、癌診療に関しましては、術前・術後を中心とした化学療法、放射線治療、乳癌術後のリンパマッサージなどの理学療法にも力を入れています。今までの経験を活かし、またより多くのことを学び、当科の診療の一端を担えるよう研鑽していきたいと思っています。

まだ、未熟者の身ですが、一生懸命精進していきますので何卒よろしくお願い申し上げます。



消化器内科 樽本 亮平

宜しくお願いいたします

消化器内科の樽本亮平(たるもと りょうへい)と申します。出身は鳥取県倉吉市で、鳥取大学医学部を卒業後、鳥取大学医学部附属病院と鳥取県立厚生病院で初期研修を行った後、鳥取大学第二内科へ入局しております。

消化器疾患を中心に、内科全般の診療に従事し、皆様のお役に立てるよう日々成長していけたらと思っています。宜しくお願いいたします。



初期臨床研修医 宮内 亘

はじめまして

初期臨床研修1年目の宮内亘(みやうち わたる)と申します。出身は鳥取県米子市で米子東高校、鳥取大学を卒業しました。大学ではボート部に所属していました。ほどほどに体を動かすことが好きです。学生の頃の臨床実習でお世話になった際、指導して下さった先生方やスタッフの方々の熱意に触れ、ここでの研修を希望しました。今年度の1年目研修医は一人で、不安ではないかと聞かれますが、自分が医療の現場で主体的に動くための感覚を身に着ける良い機会だと考えています。また、困ったときは指導医の先生方がサポートしてくださるので、適度に緊張感を保ちつつも安心して研修に臨むことのできる環境だと思っています。研修も始まったばかりで右も左もわからない状態ですが、一日でも早く知識・手技を身に着け、地域の医療に貢献できる医師になれるよう努力していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





リハビリテーション科

理学療法士長：日浦 雅則

理学療法(士)とは？



理学療法とは、病気やけがなどによって運動機能が低下した状態にある患者さまに対し、運動療法や物理療法を用いて、筋力、関節可動域、協調性、耐久性といった運動機能の維持・改善を図る治療法です。理学療法の直接的な目的は運動機能の回復にあります。日常生活動作の改善を図り、QOL（生活の質）の向上を最大の目標としています。運動機能の低下が原因で寝返る、起き上がる、座る、立ち上がる、歩くなどの基本動作が不自由になると、ひとりで外出ができなくなる、トイレに行けなくなる、着替えができなくなる、食事が摂れなくなるなどの不便が生じ、QOLが低下します。誰しもこれらの動作を、ひとの手を借りず行いたいと思うことは自然なことであり、理学療法は病気や障がいがあっても住み慣れた街で、自分らしく暮らしたいという思いを大切にしていけます。理学療法士を一言でいうならば動作の専門家です。起き上がる、立ち上がる、歩くなどの日常生活を行う上で基本となる動作の改善を目指します。治療の内容については、医師の診察や処方に基づき理学療法士が患者さま一人ひとりについて医学的・社会的視点から運動機能や生活環境等を十分に評価し、それぞれの目標に向けて適切なプログラムを作成します。（日本理学療法士協会ホームページより一部抜粋）

【当科の特徴】

現在、リハビリテーションの診療報酬体系は疾患別となっており、運動器疾患、脳血管疾患、呼吸器疾患、心大血管疾患、がんの5疾患に定められています。当科では、運動器疾患が約6割と最も多く、次いでがん2割、呼吸器疾患1割、脳血管疾患1割となっています（26年度実績）。しかし、本来理学療法は疾患が対象ではなく疾患から派生する障がいであったり、その状態である患者さまが対象となるべきと考えています。当科の理学療法士はこのような理念の下、総合的なアプローチが提供できるように取り組んでいます。

近年、包括的リハビリテーションという概念が標準化しており、その内容は運動療法のみではなく、患者教育、生活指導、支援・カウンセリングなども含まれるとされています（図1）。作業療法士、リハビリ医、主治医、看護師、薬剤師、栄養士など

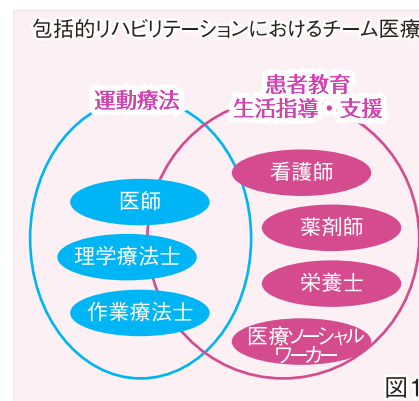


図1

多職種と連携することにより、大きな改善効果が期待できると考えます。自宅退院や転院の際も地域医療連携室と協力し、患者さま・ご家族が安心して退院または転院できるように支援しています。

また、平成25年度から平日のリハビリテーションに加え、土曜日と祝日にも早期リハビリテーションを開始しました。

①早期離床による合併症予防とADLの早期改善

②リハビリの継続性と即時性を改善させ、治療効果の向上を図ることを目的に発症または術後早期の患者さまを中心に病室や病棟で実施しています。これにより、整形外科領域では以前と比較し、大腿骨近位部骨折術後の離床開始日や人工膝関節全置換術後の歩行練習開始日などが短縮されています。

リハビリテーション科はこれからも質の高いリハビリテーションを提供し、患者さまのQOL（生活の質）の向上に努めていきます。



リハビリ用マシン

薬剤部

副薬剤部長：大井 康史

初めまして♪ 薬剤部です。



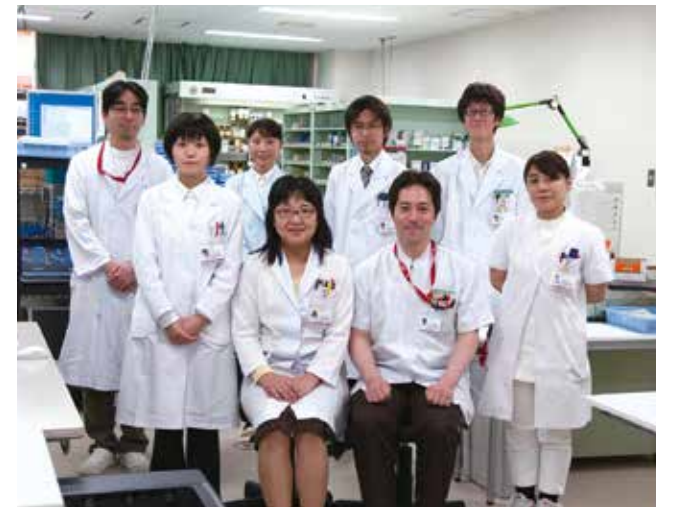
平成26年7月の新病院移転から早いもので10ヵ月ほど経ちました。電子カルテを同時に導入したこともあり、最初の頃は薬剤師も多少混乱しており、患者さま、開業医の先生方、病院スタッフ、また、特に1回量処方の方で開業の薬局の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、ようやく通常の状態となりました。

新病院になって薬剤部における最大の変化は電子カルテが導入され、それに伴う機器の整備が行われたことです。旧病院では医師が記載した手書きの処方せんを転記する際にミスを生じる可能性がありましたが、現在は薬袋の印刷まで自動となっているため、安全かつ効率的に業務を行っています。入院の患者さまへは、入院時に持参されたお薬を薬剤師が鑑別し電子カルテに入力することで医師の処方入力負担軽減に寄与することが可能になりました。



一包化された薬

また、注射のラベルが電子カルテシステムを利用して印刷することが可能とな



り、さらに内服薬をほとんど一包化（1回分の薬を1つの袋に入れること）とすることで看護師の配薬の負担軽減に寄与することが可能になりました。以前と違い、薬の説明を行う際にも、患者さまの状況・検査値等の情報が素早く確認できるようになったため、説明を充実させたり副作用が早期に発見できるようになったりしたのでは、と感じています。



サテライト薬局

他に大きな変化としては、化学療法センターの開設に伴い、センター横にサテライト薬局を配置し、より効果的で安全な化学療法が行えるよう、患者さまごとに、抗がん剤の投与経路・投与時間・投与量・休薬期間等についての確認を行っています。

このサテライトでは抗がん剤の混合業務を主に行っており、抗がん剤の周囲への拡散を防ぐための安全キャビネットを使用し、特に、作業員やスタッフの抗がん剤の被ばく防止に配慮しています。

また、その他、診療支援の一環として

抗MRSA薬の副作用防止や至適投与量の決定のための解析もさらに充実させていくつもりです。

最後になりますが、この4月より『薬剂科』から『薬剂部』となりました。転勤者2名、新規採用者も3名加わり、ともども新生薬剂部をこれからもよろしく願い致します。





2015年3月3日(火)、米子医療センター附属看護学校講堂において第46回生の卒業式が行われました。

在校生代表の稲毛桃子さんが「様々な経験を通して、何事にも立ち向かわれていた姿は、先輩方と同じ道をたどっていく私たちの目指す姿です。これからどんなに苦しく辛い状況にたつたとしても、先輩方の姿を思い出して同じ道を歩む仲間と支え合い、自分のなりたい看護師像に向けて私たちも一歩ずつ、努力していこうと思います」と送辞を述べた後、卒業生代表の田貝裕子さんが答辞を読み上げました。厳粛な雰囲気の中、卒業式を終えた34名の学生が学び舎を後にしました。この学校で学んだ事を忘れずに、新人ナースとして新しい一歩を踏み出した方々に、心からエールを送りたいと思います。

答 辞

寒さやゆらみ、日に日に春の訪れを感じる今日、このよき日に、私たち3年生一同は無事卒業式を迎えることができました。このような盛大な卒業式を挙行していただき、また、ご多忙のなか、ご臨席くださいました皆様、そしてご来賓の方々には心温まる激励のお言葉をいただき、心からお礼申し上げます。こうして卒業を迎えるにあたり、家族をはじめこれまで私たちを支え、成長を見守って下さった全ての方に深く感謝いたします。

思い起こせば3年前の4月、私たちはこの講堂での入学式から新たな一歩を踏み出しました。看護師を目指すきっかけ、経験や出会いは様々ですが、皆で歩み始めた第一歩でした。看護を目指す道に期待や希望もありましたが、私自身としては社会人を経て入学し、久しぶりの学業や、年の離れた同級生たちになじんでいけるだろうか、強い不安があったことを思い出します。

入学してからは授業、技術演習、テストなどに追われる日々でした。6月には初めての病棟での実習があり、看護学生として白衣を着て病棟に入る緊張感を体験しました。また、清拭・洗髪などの技術演習では、お互いの体を拭きあい、どのようにすれば患者さまに安心し、気持ちいいと感じていただけるだろうかと考え、先生方からのご指導をいただいたことをよく覚えています。そしてこのグループでの活動を通して、少しずつお互いを知ることができていきました。

2年生になると、私たちは学生の中心となり、オープンスクール、学校祭といった学校行事をまとめながら、複数のグループワークや課題などを同時に行うことの難しさを体験しました。このなかでリーダーシップをとることは決して簡単なことではなく、くじけそうに投げ出したくなりそうな時もありました。その度クラスで支えあい、力を出し合って乗り越えてきました。至らない点が多々ありましたが、周囲の方々の支援を得て、一生懸命取り組んだことは成長につながったと思います。この2年次の経験で私たちの団結力は増し、仲間意識が強くなっていきました。

3年生になるとすぐに、9月に及ぶ専門領域の実習が始まりました。ここで私は、看護の道を進んでいく上で何が大切なのかということをお教えた出会いとお別れがありました。一人

目は施設に入所していた私の祖母で最期を施設で看取りました。面会に行くと、食事を摂ることもできなくなり日に日に弱っていき、手足の先は冷たく紫色になっていました。その手をそっと握っていると、ふっと温かみもどっていました。私はその時、2年次のケーススタディの発表会で指導者さんが言われた「この手を使って看護をするんですよ」という言葉を思い出しました。手を使って看護をするということは単にさわるということではなく、思いがこもるからこそ、看護として相手に通じていくのだと実感できました。そして、その秋、私がこの道を進みたいと思うきっかけをくれた看護師である私の従妹とのお別れもありました。従妹は乳がんから多発転移し、余命数ヶ月と宣告されていました。腹を抜くための入院を繰り返しながらも見せる笑顔は、残される家族へ強く生きることを示しているようでした。在宅で家族に囲まれて息を引取るまで、夢を追いつつ生き抜く姿を見せてくれました。

この時期私は、終末期実習で末期がんの患者さまを受け持たせていただきました。患者さまが思うように生きるためには、看護学生として、自分には何ができるのだろうか、少しでも安楽で安心して過ごしてほしいと願いながら患者さんのそばにいました。アロマオイルを使って身体をマッサージすると、寝息を立てて眠られ、「ここちいい、ここちいい……今日もしてくる？」という患者さまに触れるうち、私自身も癒されていくような気持ちになりました。家族を思うため独りで頑張ろうとしておられた患者さまでしたが、徐々に状態が悪化していくなかでも、ゆったりと安心して過ごせる時間を共有できたように感じました。それでもこれでいいのかと不安もありましたが指導者さんや看護師さんからも「それでいいよ」と言葉をかけていただき、安心してケアをすることができました。私たちは沢山の方に支えられながら看護を実施できていたと思います。また、カンファレンスでは、先生、指導者さん、メンバーと気持ちを共有しながら、患者さまについて一生懸命考えました。以上の経験から、人にはその人の人生があり、その人らしい最期を迎えるのだということがわかりました。最後まで生き切るということに寄り添うことができる看護師を目指していこうと思います。このように看護学校で学んだことを自分の体験に寄せて感じたり考えたりすること、実習で患者さまに精いっぱい看護を実

践することは、看護師としての道を進んでいく私たち誰もが同じなのではないかと思っています。

12月、いよいよ残すは国家試験のみとなりました。3年間の集大成であるこの試験に向けて、クラスの緊張感には日に日に高まっていきました。そのような中でも、クラスの仲間では教え合い、励まし合い、お互いを思いやりながら笑顔も忘れずに私たちらしく頑張ってきました。試験直前、不安な気持ちが押し寄せてくる私たちにかけて下さった先生方の「こんなに頑張ってきたんだから大丈夫だよ」という言葉、その言葉に心から救われました。

国家試験を終えた翌週、私たちは久しぶりにこの講堂に集合し、クラスでバレーボールをしました。重圧から解放され、大きな声を出し、転び、笑い、汗をかき、入学当初を思い出しながら、そこには入学時とは違う何かがありました。安心、信頼、心地よさ、お互いを認め合う気持ち。皆がこの仲間と過ごしてきた時間の尊さをどこかで感じていたと思います。

在校生のみならず、来年、再来年、卒業の日を迎える時、私たち34名が、共に一つの目標に向かっていった大切な仲間であることを誇りに思っているように、みなさんも看護学校生活を過ごしていけることをお祈りいたします。

3年間実習で、病気をもちながらも未熟な私たちを受け入れ、看護を学ばせてくださり私たちを励まして下さった患者さま、ご指導くださった病棟や施設の指導者の方々、そして親身に相談に応じて下さり、多くのアドバイスを賜りました先生方、今日まで私たちを支えて下さった全ての人のお蔭でこの晴れの日を迎えることができました。本当に有り難うございました。

私たち34名は今日からそれぞれの道を進み始めます。この仲間と共に一つの目標に向かって学び、支えあい、努力できたことは本当に幸せでした。この学び舎で共に笑い合うこと、喜び合うことはできなくなりますが、この仲間たちと共に過ごしたかけがえのない思い出を胸にそれぞれが新しい環境で邁進していきます。

看護職として精進し続けることをお誓いし、また皆様のご健康を祈りつつ卒業生代表の挨拶とさせていただきます。

平成27年3月3日

卒業生代表 田貝 裕子



米子医療センター
YONAGO MEDICAL CENTER

看護の日フェア

5/16 ^土 9:30
SAT ~12:00



Nurses Day Fair

2015

新病院になりました。
皆様どうぞ
お越し下さい。

EVENT イベント

測定

血圧・体脂肪・
骨密度・血管年齢

相談

健康・お薬・栄養・
介護・感染予防

●アロママッサージ

●ミニコンサート
(11:15~11:45)

●めだかすくい

すべて
無料



開催
場所



米子医療センター

〒683-0006 米子市車尾4丁目17番1号

1・2階外来

TEL.0859-33-7111